

BCAO 関西支部 平成 29 年 1 月度（第 116 回）地域勉強会議事録

日時：2017 年 1 月 18 日（水） 18:50～20:20

場所：大阪市中央公会堂（第 6 会議室）

司会：藤村 書記：佐々木

参加者：野原、飯田、鷺山、萩原、柳父、梅田、岡田、櫻本、佐々木、中島、中村（和）、林（吉）、古江、速水、荒家、浦川

テーマ① 2015 年度 BCAO アワード受賞企業の事例発表

【事業継続部門】特別賞・優秀実践賞 天野産業株式会社 様

講師：古江様（天野産業株式会社）

< 講演内容 >

資料「天野産業の経営戦略～事業継続活動を通じて 地域創生を目指す～」(天野産業株式会社作成)に基づき、古江氏が説明。その後、出席メンバーと意見交換を行った。

(1) 会社概要

設立 1969 年、資本金 6,000 万円、従業員 60 名

- ・本社は岡山県笠岡市にあり、国土交通省中国地方整備局、岡山県、笠岡市を主たる取引先とする。公共工事を中心とした、建設事業を行う。
- ・中国地方整備局 BCP 認定(2013 年 2 月)、ISO22301(2014 年 3 月 建設会社全国初、岡山県下初)、レジリエンス認証(2016 年 7 月)、ISO9001、ISO14001 を取得
- ・2013 年 11 月より、天野産業グループ企業の(株)エー・アンド・エーが、指定管理者として、「道の駅 笠岡ベイファーム」を経営。悪い立地条件の中、不利な条件を活かした経営を行う。また、事業継続にあたり、マンネリ化や出荷者の高齢化という課題はあったが、天野産業の BC 知識を導入し、順調に売り上げを伸ばし、継続して安定的な経営を行う。

(2) 天野産業(株)BCP/BCM の取組み

- ・2012 年 7 月より、岡山県産業財団モデル企業として BCP 策定開始(同年 11 月に策定)
- ・当初反発があったが、経営者の後押しのもと従業員の立場でどう周りを巻き込むかを考え推進し、BCP 策定、中国地方整備局 BCP 認定、ISO22301 取得など成果を得ることができた。
- ・2016 年 6 月、災害時等における建設会社間の相互支援に関する協定(なでしこ BC 連携協定)締結。
- ・主な研修・訓練は、以下の通り。
 - －BCP 演習(机上訓練) ー 初動対応訓練(実働訓練)
 - －安否確認携帯メール送受信テスト ー BCP 研修(社内研修)
 - －バックアップデータ復旧訓練

(3) 事業継続力向上の効果(2015 年 1 月 笠岡市における鳥インフルエンザへの対応)

(天野産業の対応)

- ・岡山県建設業協会から消毒作業などの対応依頼があつてから現地での作業開始まで、機材調達・積み込みや対応人材確保を、社長・経営者のトップダウンで行った。
- ・その後も、稼働中の現場を停止させずに、1 ヶ月程度恒常的に社員を 5～10 名程度継続的に送りこみ、作業を継続させた。

(BCM 効果)

- ・社長・従業員のインシデント対応意識が高く、初動がしっかり機能した。
- ・年度末で建設業者は手一杯の中でも、稼働中の現場を停止させることはなかった。

(BCM 課題)

- ・天野産業社員及び協会員の中でも、対応要員がある程度限定されてしまい、長時間労働となった。
- ・天野産業が主体になりすぎた。消毒作業開始まで、天野産業一社での初動対応は大変だった。
- ・行政、協会、天野産業間の情報の発信・指示系統が当初機能しなかった。

(4) 熊本地震でのボランティア活動

- ・これまでの BCP の取組み(訓練、実地)により意識が高まっており、天野産業より 8 名が志願して参加。
- ・活動してみたが、普通のボランティア活動にとどまってしまい、建設業者としての能力を発揮して貢献する機会はなかった。
- ・懇意な企業があるなど、某かのつながりがないと、一企業として専門的な知見・技術を発揮して貢献することはできないことを痛感。
- ・熊本地震でのボランティア活動での経験を通じ、「おたがいさま BC 連携」の必要性を認識。「なでしこ連携」に参加。

(5) 質疑応答

- ① BCP 策定時に、鳥インフルエンザの想定はあったか。策定した BCP のどういうところが、2015 年 1 月の笠岡での鳥インフルエンザへの対処に役立ったか。(メンバー)
→ 鳥インフルエンザは BCP 策定時には想定範囲外としていたが、繰り返し実施した教育・訓練での地道な意識付けがあったからこそ、鳥インフルエンザ発生時のトップダウンでの対応が上手くまわったと考えている。(古江講師)
- ② 迅速な初動であるが、鳥インフルエンザが発生すれば建設業に発生するものなのか。(メンバー)
→ そういうケースで建設業に仕事が発生することは、協定を締結している時点で分かっていた。建設業協会から依頼があるタイミングよりも 1 時間ほど早く、別ルートで情報を入手していたこともあり、依頼後直ぐに初動を採ることができた。(古江講師)
- ③ 鳥インフルエンザ対応に社員を送り込むのはすごい勇気だと思うが、人に感染するかもしれないというリスク認識は社長にはあったか。(メンバー)
→ 協定を締結しているので、行かなければならないという考えであった。人への感染リスクにつ

いては、対策の考慮がもれていたところ。(古江講師)

- ④ BCP 実践初であったにも関わらず、準備段階にて「トイレ」持参まで想像力が及ぶところがすごい。(メンバー)

→ 初動時にトイレがないと困るので、持っていこうという感覚であった。BCP 策定し運用開始した当初は、シナリオに沿った型どおりの訓練実施にとどまっていたが、トップ不在でもある程度判断し対応できる対応力を身につけるべく、色々なバリエーションの訓練を行い、意識を今のレベルまで高めることができていると考えている。(古江講師)

- ⑤ 5 分ごとに行政から指示連絡がきたものについて、実際に確かめに行こうという意識になったのは、どういうところからか。(メンバー)

→ 災害対策本部に常駐していた人から、30 分くらい指示連絡を受けてみると、内容に一貫性がないことに気づいたので、実際に現場を確認した上で、判断することとしたと聞いている。行政側は、建設業の現場のことが良く分からない事務方が対応していたことがあとで分かった。現場で必要とすること(部材やその分量、作業など)は、専門家が自らで判断しないと、分からない。(古江講師)

- ⑥ ISO22301 取得の動機は？BIA は実施したか。(メンバー)

→ 岡山県振興財団に BCM 推進の一環として取得をお願いされたというのが背景にある。BIA は実施している。(古江講師)

テーマ② 2017 年度 勉強会カリキュラム(アンケートのフィードバック)検討 他

(1) アンケート結果の説明、勉強会カリキュラム案への反映について

BCAO 関西支部・勉強会運営に関するアンケート纏め 資料に基づき説明。

- ・勉強会の日程、時間、開催頻度については、現状のままというご意見が大多数。
 - ・一部、木曜日(1 名)、火曜日と水曜日以外(1 名)希望という意見あり。
 - ・満足度の高かったテーマは以下の通り。
 - －取り組み事例(グリコグループ様、常翔学園様、D-PAC プロジェクト(熊本対応))
 - －海外の BCP
 - －お悩み相談会
 - －「本部提言:これからの BC(3 つの要素)」を踏まえて考える
 - －徳島研修
 - ・来年度の勉強会テーマについて(積み残し分)
 - －家庭防災対策の実践
 - －災害対策基本法改正について
 - －三木市の e ディフェンス見学
 - －ISO22301
 - －自然災害リスク全般(富士山、パンデミック含む) 他
- (取り上げてほしいテーマ)
- －ファシリティマネジメント

- ー中小企業、小企業をクライアントとしたコンサル活動
- ー事例紹介
- ーシミュレーション系研修 他

- ・現状、上記を 2017 年度テーマ(案)に候補としてあげている。
- ・意見、希望があれば、BCAO 関西支部のメーリングリストにて寄せてほしい。
- ・講師として登壇されたい方も、引き続き募集中。
- ・関西支部メンバーのみだけでなく、外部講師も招聘して勉強会を開催することを検討中。
 - 外部講師費用の捻出はどうか。
 - 今年度の費用実績を取り纏めと来年度の予算を検討を行い、2 月の支部運営会議にて協議する。
協議結果を支部会合で報告し本部へ報告予定。

テーマ③ その他

- ・2 月度勉強会テーマは、(仮)竹中工務店の BC について。担当は、藤村座長。
- ・3 月度勉強会は、丸谷副理事長の講演で調整中。テーマは自薦頂いているが、支部メンバーの要望をヒヤリングする。岡山研究会、徳島研究会にも案内予定。

以上